



※参考値出典：日本病院会 2016 年度 QI プロジェクト結果報告 No04-a 入院患者の転倒・転落発生率 一般病床 346 施設平均値  
 ※‰=パーミル 千分率を示す値(1‰=0.001)

## ■ 安全管理の精度向上に取り組み続ける

本指標は全体の入院患者さんのうち医療安全管理室へ報告された転倒・転落件数の割合を千分率で示しています。患者さんの入院中にはベッド周りやトイレ周辺など、思わぬところで転倒や転落が発生しています。

2016 年度は前年度と比べ発生率がわずかに低下致しましたが、転倒転落の発生原因には設備的な事、治療中の身体の不自由や認知症などの既往症等様々な要因が考えられ、患者さんの個々の状況に配慮した安全体制を継続的に作り続けることが必要不可欠です。



医療安全を目的とした  
病棟ラウンドの様子

医療安全管理室では日々、病院で起こるインシデント（事故発生の予兆）とアクシデントの報告を全部署から集めその分析や対策を講じています。安全管理の裾野は広く転倒・転落、投薬状況の管理、チューブ・ドレーン類の患者さん自身による抜去の有無、輸血など多岐に渡ります。その他、年 2 回の職員向け法定研修の実施や病院幹部が同席しての医療安全管理委員会の運営も行っています。2015 年 10 月から始まった医療事故調査制度への取り組みなど今後も医療安全・医療事故に関わる内容は厳しく問われていく事になりますので、荻窪病院の安全管理も常に強固なものとするよう尽力して参ります。